

がんばろう 南三陸町

復興第 30 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

志津川地区町づくり協議会合同専門部会参加報告④

町への提言提案（中間報告書）

〔第18回高台移転、第15回産業再生、
第16回公園合同専門部会（5月22日）〕

高台 7 名・産業 5 名・公園 10 名に町長・副町長も参加して開催された。始めに及川会長が町協も 2 年を迎え 1 つのステップに達した。良いコミュニケーションの構築を、元気な町、一人でも多くの人々が帰ってきて、孫子の代まで皆さんが楽しく住める町の創造のために、次のステップの部会の在り方について語った。

《高台移転部会》

居住ゾーンの位置付けとして、高台の住宅地や公共施設周辺を造成し、より安全な居住地を形成する。公共ゾーンとして、役場・病院など重要な公共施設を高台に移転集約する。

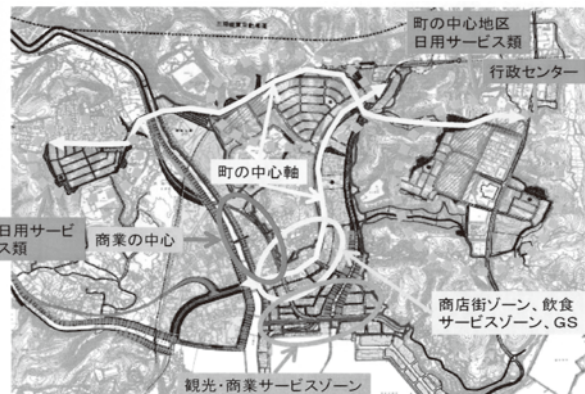
目的とすべき方向性は、〈その 1〉として志津川における高台住宅への移転決定方法として ①コミュニティへの配慮 ②特別な事情がある方への配慮を上げ、優先順位として元地主、要介護者その家族、災害公営居住者の親族と続く ③公平性・情報公開性の配慮とした。

〈その 2〉志津川における高台住宅地に必要な機能として、●若い世代が住み続けられる住宅地 ●福祉介護施設、道路勾配など高齢者への対応 ●日常必需品の商業施設 ●子供たちの遊べる公園 ●低地部への商業地域のアクセスなど多くの提案を出した。

〈その 3〉志津川の高台移転の全体のルール確立と地区別検討体制の構築を議論し継続検討とした。

《産業再生部会》

低地部の商業・観光ゾーン及び、産業ゾーン等に



関する提案にして中間報告として出した。

「商業・観光ゾーン」を港町らしい賑わいと魅力ある店舗等が並ぶ区域とし、「産業ゾーン」は水産業の再生に必要な市場、作業場、水産加工施設などを効果的に配慮する区域として、この 2 つの市街地の再生を検討した。

目標とすべき方向性として、三陸道の開通を踏まえ、商業の中心地として国道 45 号と 398 号及び八幡川に囲まれた地域を重点エリアとする。志津川漁港付近に来訪者を意識した施設の集約が必要と位置づけた。

「先行して完成させ復興をリードするエリア」の必要性として、①商業の中心として旧五日町付近を先行的・重点的に整備する。②来訪者向けを中心とした共同店舗を整備。③志津川低地部を回遊拠点としての大規模駐車場の整備の 3 点を上げた。

部会としてイベント空間の確保等による観光客の回遊性と町民の賑わいの場の創出と、高台の商業形成として日用品サービス品類などを扱う店舗の形成促

進についての議論は継続検討内容とした。

《公園部会》

公園・緑地ゾーン及び、八幡川の河川堤防に関する土地利用と環境整備を提案した。

「公園・緑地ゾーン」は復興の象徴であり、防災機能を有するなど多面的な役割を担う公園を整備する地区として、その形態について検討した。

部会の目標とする方向性として、海に近い所から「原点ゾーン」「現在ゾーン」「未来ゾーン」と位置づけ、震災から復興までの軌跡が見えるような空間構成を目指した。

その 1 として原点ゾーンについては ①防潮堤を陸側にセットバックさせ、海と触れ合える空間を確保する ②防潮堤をセットバックさせ生まれた空間は、現状のまま自然回帰させる ③津波により破壊された旧防潮堤の一部を震災遺構として活用するとした。

その 2 の現在ゾーンには、①防潮堤までの嵩上げを実施 ②町内外の人の交流・学習の場となるネイチャーセンター（仮称）の誘致 ③原風景の復活及び減災に資する防潮林の植栽を提案した。

その 3 の未来ゾーンは、公園エリアと自然的土地利用エリアは継続検討とした。その 4 として、八幡川の河川堤防については ①長く幅の広い親水空間のある遊歩道の整備 ②親水空間への階段の設置 ③緑面堤防にできるようなしつらえ ④中橋の復活などを提案した。

平成 23 年 12 月に南三陸町震災復興計画が策定され、「自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち」の実現に向けて、「町づくり協議会」の 3 部会では、専門部門の部会員が 2 年間真剣に議論し、町へ提案提言として中間報告をした。



志津川高等学校

平成 26 年度 同窓会総会

日時 7 月 12 日(土)

総会 13 時 30 分～

懇親会 14 時 00 分～

場所 南三陸プラザ(天王山 135-1)

会費 3,000 円(新会員無料)

※受付は 13 時 00 分からとなっております。

【問合せ】同窓会事務局

TEL 0226 (46) 3643

お誘いあわせの上、多数のご出席をお待ちしております。

あれから、どれだけの時が過ぎただろう

でも、今日ぐらいいはあの日にかえろう

共に過ごした あの学び舎での青春時代

集うは、時を越えた仲間たち

笑顔あふれる この場所で

つなごう 固く手を

つなごう 万感の想いを

つなごう 世代を超えた出会いを

ここにあり志津川高校 南三陸町ここで生きる

PC 経験者 HP 作成できるアルバイト募集



当社は被災前の半分の規模で、志津川商工団地内の倉庫を改装して工場を新設しました。

以前同様の営業内容にて、皆様のお手伝いとしての印刷を主体とし、情報発信として「がんばろう南三陸町」を発行し、今回で「復興 30 号」となりました。

町民皆様と共に志津川地区で南三陸町の新しい街を見届けましょう。

「南三陸町で一緒に暮らしましょう」

志津川商工団地新設



志津川広報センター

南三陸マイタウン情報発行中

千葉総合印刷(株)

住所 志津川字沼田 150-84

TEL 0226-46-3069



志津川沼田商工団地通りに開店



ランチ

(AM11 時～PM2 時)

- ・ラーメン
- ・天丼・かつ丼
- ・唐揚げ定食
- ・ヒレカツ定食
- ・スパゲティ
- ・カレー



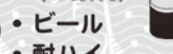
その他各種ございます。

- ・コーヒー・ケーキ・日本酒

つまみ一品料理

(PM5 時～9 時)

- ・焼きとり
- ・ホタテ串
- ・たこから揚げ
- ・いかげそ
- ・つぶ串
- ・ビール
- ・酎ハイ
- ・角ハイボール



その他各種ございます。

- ・角ハイボール

ごあいさつ

町民のみならず、町の復興復興に尽力されている方々、厳しい環境での生活お仕事御苦労様です。

当店「リッチー」も仮設店舗での営業を 3 年余り続けてまいりました。そんな中で「地域の皆さんが集まれる場所」「家族でくつろげる憩いの場所」が欲しいとの要望や、「南三陸町へのボランティア支援」「復興で働いている方々」に少しでも心身共に休んでいただける所を提供したい。被災後の私どもへの多くのご支援への恩返しを込めまして、「ランチ&カフェ★リッチー」をこの度オープンいたしました。

町民の方々、復興事業の建設関係者、観光支援で来町される皆様、がんばろうと感謝の意を込めまして、新店舗での営業を始めました。今後とも町民の皆様と、早期に南三陸町の新しい町づくりが誕生するよう、一生懸命に営業いたしますので、よろしくお願い致します。

ランチ&カフェ★リッチー

店主 佐々木長司



皆様のご来店を心よりお待ちしております。

パートさん募集中!

定休日:日曜日

LUNCH & CAFE

リッチー

TEL(0226)46-6036

渡 公 工 務 店

南三陸町志津川字袖浜 1-5 TEL 46-2944

株式会社 千葉誠

南三陸町志津川字沼田 TEL 46-4343

有限会社 イー・エム工業

南三陸町志津川字館田 TEL 46-1577

インテリア ヒロ

南三陸町志津川字十日町 TEL 090-2364-3763

サトー塗装店

登米市泊町佐沼字中江 4 丁目 14-7

有限会社 マルナオ遠藤土建

南三陸町志津川字大久保

TEL 46-3422

菅 雅 左 官

南三陸町志津川字廻館 TEL 46-3754

株式会社 山 大

石巻市瀬見町 TEL (0225) 93-1111

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年)
～地元報道より～

5月の出来事

◇南三陸町行政区長・連絡員会議で28公共施設の計画を説明。

◆気仙沼市長・水産団体が農水大臣に「ガンバル漁業」延長要望。

◇志津川観光船が復活。袖浜漁港から「第三はまゆり」が運航を開始した(5月3日)

◇南三陸2号・3号トンネルの年内完成を目指し19日に安全祈願祭。

◇今年も伊里前川の「しろうおまつり」、おどり食いや吸い物で、南三陸町歌津をアピール。田束山のつつじも満開と、共に開催した。

◇気仙沼市・南三陸町「過疎地域に指定」人口の減少歯止めかからず。

◆雇用・子育て実効性ある対策を。人口が減っているのに世帯数が増加している。(気仙沼)

◆気仙沼市「向洋高校」震災遺構に調査費計上。

◇南三陸町は「緊急物資輸送」で、トラック協会登米本吉と協定締結。

◇南三陸町議会では中断していた「町民懇談会」を後活する。21年10月には、議会改革により22人の定員が16人まで削減された。

◆徳仙丈山のつつじ5月下旬に見ごろ。気仙沼市内側から「徳仙丈つつじバス」運行。



第3回桜植樹祭の「植樹祭記念コンサート」が5月11日(日)ベイサイドアリーナ「交流ホール」で開催された。

12時からのコンサートは、LOOM NIPPON代表の加賀美さんが挨拶で「南三陸町は2011年世界の地から消えた。一瞬にして消えたとして世界のメディアは一斉に伝えた。災害の希望の動きを考えた時を、思い出したくない。」の言葉は、新鮮なメッセージとして、私たちは心を打たれた。

1回目の桜植樹で170本、3回目の今回で851本が植えられた。南三陸町の復興は皆が立ち上がる事という。無名の人たちが多くの人々を助けた。



病院の看護師さん、学校の先生が子どもたちを守った。世界中の人も「人類愛」「兄弟愛」という形で、より南三陸町は勇気の象徴となったと、話した。

最大の支援者であるフランスのドール社からのメッセージが読まれた。「私たちはずっと続けます、毎年来ます、『ありがとう』係る多くの方々に感謝します」と結んだ。

地元のコーラス団体の参加があった。「コール潮騒」さんは震災で会員がバラバラとなり、会の洋服も流され一時再開を諦めた時があったが、歌で被災者の皆さんを力づけたいと、再度グリーンTシャツを新調し活動をスタートした。

会長の挨拶・司会者の団体紹介の言葉・活動の姿に心を打たれ、後援に町と南三陸森林組合があ

たり、受け皿問合せ先として入谷地区に新設したアストロ・テックさんが活動を支援した。「5000本」の桜の植樹を続け、10年後20年後に桜の花が溢れる南三陸町になるよう活動して行く。

今回のコンサートにも有名な音楽家の方々が参加してくれた。その中に清泉女学院高等学校(神奈川県鎌倉)48名や、坂本九氏の長女 大島花子さんが「上を向いて歩こう」など2曲を歌ってくれた。

コンサート終了後に、南三陸町クリーンセンターの法面と入谷アストロ・テックさんに桜を植樹した。毎年、植樹された苗が花を結び、南三陸町が10年・20年後に桜で満開となり、町民が桜の花びらで包まれる日を夢み、町民皆さんが笑顔に包まれる事を楽しみに、共に頑張りましょうの、メッセージが込められている。



『真奈尚子南三陸町応援コンサート』



【戸倉中仮設応援コンサート】

「あざみの歌」で一曲目から、戸倉仮設の60名余りの観客を魅了した。歌と会話の「真奈尚子南三陸応援コンサート」を、「老人介護施設ハイムメアーズ」に引き続き「戸倉中仮設」で開催し、来場の皆さんは「真奈尚子」の優しさに触れた。彼女の環境と苦悩が被災地の皆さんとよく似ている。お寺の娘のとして生まれ、女3人姉妹で、二人の姉を亡くし、17年前に母も亡くした。仮設で集まってくれた母親と同じ年代の女性に、「大変でしたね」「辛かったです」と、互いの苦境に似たものがあり、その気持ちを理解していた。

真奈さんのお母さんの好きだった「ここに幸あり」を、仮設の皆さんと共に最後に歌い、互いに涙が溢れた会場は温かさに包まれた。

—— 南三陸町コール潮騒と交流 ——

5月で多くのイベントに協力参加がある中、突然の地元支援の方への協力出演に心良く応えてくれた。コール潮騒さんは20名を越える会員ながら、都合の良い10名余りが参加の元、事前の音合わせ打ち合わせなどを行い、コンサート前の10分間で「しあわせ運べるように」と森山直太郎の「桜」の2曲を披露した。阪神淡路大震災で作られた「しあわせ運べるように」を東日本大震災に合わせた歌詞に、震災の南三陸町の悲劇の風化防止を思った。コンサート終了後は、真奈さんとの記念写真や、南三陸町の活動による「歌の力」の素晴らしさを語り合った。



ホテル観洋でのコンサート

18日の真奈尚子コンサートはホテル観洋の「クラブ竜宮」で開催され、シャンソン・タンゴ・歌謡曲の融合した、しっとりとした癒しの溢れる歌に、集まった80名余りの観客が引き込まれていった。

「あなたゆえ」「はなさない」「愛の背中」など、自分が選曲した歌を10分間で一気に歌いあげた。次に竹久夢二生誕120周年記念、松竹映画「およう」の主題歌「離さないで」(よいまち草バージョン)を熱唱した。映画には女優としても出演している。

鮮やかな紫色のドレスに身を包み、「クラブで歌っているよう」と会場の雰囲気を使い、シャンソン歌謡曲的な歌声に観客は釘づけとなった。4曲目を歌い終え時、「NHKのコンサートに立っているようで緊張して、歌詞間違えちゃった。」と、会場の笑いを誘っていた。

平成26年南三陸町を手品で応援

長野県飯島マジッククラブ公演

◆7月14日(月曜日)午後3～5時
戸倉中学校仮設集会所

◆7月15日(火曜日)午前10～12時
志津川中学校仮設集会所

ご来場の方々にプレゼントがありますが、数に限りがありますのでご容赦下さい。

長野県飯島町

飯島マジッククラブ

◇戸倉小学校の新築に今年夏に工事着工。避難所の機能を備えた学校に整備する。

◇ボランティアセンターがモアイ像を制作し、役場、病院、アリーナなどに寄贈。地域の活性化や復興の願いを込めて。

◇志津川地区高台移転計画(防集・公営住宅)復興計画を待ち切れず独自再建が進み2割縮小、計画の修正へ。

東地区▶防集 154戸(46戸減)
災害公営281戸(89戸減)

中央地区▶防集 135戸(10戸減)
災害公営147戸(29戸減)

西地区▶防集 70戸(20戸減)
災害公営 98戸(37戸減)

◇「がけ地近接等危険住宅移転事業」の申請期限が27年度末に迫っている。

◇南三陸町では3300世帯が被災し、意向確認できない世帯が2割の650世帯に上る。

◆気仙沼市被災宅地の6割65haが買い取り終了。

◇藤浜防災集団移転で、第1号の住宅建築始まる。(10区画の内の一区画)

◇チリ地震津波(5月24日)に防災庁舎前で静かに黙祷。

◇志津川中心街デザイン公表。テーマは「海と一体」で「しおさい通り」に商店を集約する。東大建築家の隈研吾氏の町デザインで町開き。

◇南三陸町観光協会総会で、交流促進事業で観光客誘致強化に新事業展開。売上金の一部(約46万)が不足、期限付き職員が4月中旬に返金。

◇志津川市街地高台移転、当初計画より2割減少。

◇入谷51戸・名足38戸の災害公営住宅、8月初旬入居開始でコミュニティ作りへ懇談会。

グループ事業の参加者募集

被災事業所には、国県の多くの再建補助事業があります。4年目を迎え町の商工地・高台移転、自社の再建への方向性もやっと見えてきました。「4分の3グループ事業」の参加者1名(5人の内の1人)を募集しています。

(工場・設備の現形復旧費の4分の3の資金助成事業です。)

詳細相談は 080-1801-6399千葉へ